

報道機関各位

水稲品種「にじのきらめき」と水田への高収益作物導入に関する現地検討会を開催します



現在普及を進めている、高温条件でも玄米の品質低下が少なく良食味である水稲品種「にじのきらめき」の栽培管理技術、水稲害虫（イネカメムシ）の防除技術及び収益性の高い品目（ネギ）の水田への導入に関する研究の取組を「いばらき農業アカデミー」講座の一環として生産者に紹介します。

県内各地から水稲生産者や関係者など40名の参加者を予定しています。つきましては、儲かる農業の実現に向けた研究の取組を県民にも広く紹介していただきたく、ご案内いたします。

【日時】 令和4年8月2日（火） 14：00～16：00（受付開始13：30）

【場所】 茨城県農業総合センター農業研究所 水田利用研究室 （龍ヶ崎市大徳町3974）

【日程】 1 室内検討（14：00～15：00）

（1）「にじのきらめき」に適した肥培管理方法について

（2）イネカメムシの防除対策技術について

（3）水田転作ネギの湿害回避技術と省力化作業体系について

2 圃場検討（15：15～16：00）

「にじのきらめき」及び水田転作ネギ栽培試験

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、開催を中止する場合があります。



写真：「にじのきらめき」と「コシヒカリ」との玄米の比較

「にじのきらめき」は、粒が大きく、食味に優れる品種です。また、高温条件でも玄米の品質低下が少なく、イネ縞葉枯病に対して抵抗性を有しています。



写真：傾斜圃場試験（水田利用研究室）

水田ネギの湿害発生要因を明らかにするため、地下水位が異なる条件で栽培したときの生育への影響を試験しています（写真は左から右にかけて地下水位が高い条件を再現）。

【お問い合わせ先】

茨城県農業総合センター農業研究所

担当：研究調整監 中村憲治

TEL：029-239-7211、e-mail：ke.nakamura@pref.ibaraki.lg.jp

「Thank You! いばらき農業」